

## 鳩山町の概要

埼玉県ほぼ中央部・比企丘陵の南端に位置する鳩山町は、東京都心から50km圏内にあり、周囲は2市3町2村に接している。奈良時代には須恵器や瓦などの窯業の一大産地として栄え、鎌倉時代以降は街道沿いの宿場町として賑わい、材木の中継地として栄えた。明治22年の町村制施行で亀井村と今宿村が誕生、昭和30年に両村の中央にあった“鳩山”の地名をとり「鳩山村」として合併した。純農村地帯であった鳩山村は、昭和49年2月の鳩山ニュータウンの入居開始とともに人口が急増し、急激な都市化の波を受け、昭和57年4月の町制施行で「鳩山町」が誕生し現在に至っている。

市域は、東西約8.1km、南北約5.5kmのほぼ菱形で、総面積は25.71k㎡である。周囲を巡る丘陵地は、概ね標高100メートル前後であり、全体的には比較的なだらかな地形で形成されているが、低地が細かく入り込んでいるなど、その標高差は約30メートル前後である。また、町の東部、町域のほぼ3分の1が県立比企丘陵自然公園に含まれ、豊かな自然環境に恵まれている。平成15年6月1日現在、町の人口は16,695人、世帯数は5,430世帯で、人口は平成7年をピークに減少に転じているが、世帯数は微増で推移している。町の人口の約6割がニュータウンに居住している。

交通は、主要地方道東松山越生線、一般県道玉川坂戸線等の幹線道路が町のほぼ中心から周辺市町に向かって伸びており、隣接する関越自動車道の東松山インターチェンジにより利便性は良好である。町内に鉄道は無く、最寄りの東武東上線「高坂」駅からは鳩山ニュータウン方面へ、「坂戸」駅からは今宿・大橋方面へのバス便が運行されている。町内外の移動には主に自家用車を利用することが多く、今後は周辺市町村との広域交通ネットワークや町内の各地域・拠点間の整備進展が期待されている。

商業施設は、ニュータウン地域と今宿地域とに日用品を扱う店舗が集積しているため、北部地域の日常生活の利便性を確保することが課題となっている。また、工場は奥田地区に先端技術型産業の立地地区を指定しているが、今後は亀井地区を中心とする北部地域にも新しい工業地域を設定し、新産業の誘導を計画している。

鳩山町は、平成22年(2010年)を目標とした「第4次鳩山町総合振興計画」を策定して、役場周辺地域を中心に広がる既成市街地を核とした中央拠点と、ニュータウンがある役場東出張所周辺を地域拠点とした東部地域、今宿コミュニティーセンター周辺を地域拠点とした南部地域、公民館亀井分館周辺を地域拠点とした北部地域に分け、地域生活拠点の整備を図ることを推進している。

平成15年6月2日現在